

# SHOKEI



力の限り  
高く、遠くへ!!

〈高校総体/陸上部・庄司 悠佑君 インターハイ出場〉

## 尚網学院大学宗教部の取り組み 「カンボジアプロジェクト」

2008年より「カンボジアプロジェクト」を立ち上げ  
支援に取り組んできた内容をご紹介します。

### 子羊からの一通の手紙

中高教員/田嶋 誠

教職員エッセイ  
**梅の花**  
グローバル・クラスメイツ/中高教員 白津 祈恵子

卒業生コラム  
**はばたき**  
1994年 尚網学院高等学校卒業  
Velnica(ヴェルニカ)経営者、デザイナー/小林ゆかりさん

●情報掲示板/学校行事報告 ●同窓会コーナー

第**485**号  
2012年(平成24年)  
9月10日発行

SHOKEI

2012  
485

尚網学院大学宗教部の取り組み「カンボジアプロジェクト」

発行 尚網学院後援会 〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号 TEL:022-381-3342  
印刷 田宮印刷株式会社 仙台支店  
〒983-0803 宮城県刈田町1丁目7-6 佐々木ビル105 TEL:022-295-0281(代)  
一冊送料共2,000円

### 第4回尚網メディアフェスタ ～来て、見て、聞いて～ 白石七色パズル

■ 日時 10月13日(土)・14日(日)  
10時～16時  
■ 会場 壽丸屋敷ほか白石市内各所

表現文化学科主催の文化イベント「尚網メディアフェスタ」が今年も白石市で開催されます。7つのゼミの研究発表の場ともなっていて、コンサートやショートムービー、博物館型展示など白石にアプローチした楽しめる企画が盛りだくさんです。



### 生涯学習センターからお知らせ 2012年後期講座受付開始

9月3日より受付を開始しています。  
受講申し込みは、下記の事項すべてご記入の上、  
FAX・郵便・Eメールでお申込みください。

- ① ご希望の講座名
  - ② 氏名(フリガナ)
  - ③ 住所・郵便番号
  - ④ 電話番号
- ※HPもご覧下さい。



●問い合わせ ● 尚網学院大学生涯学習センター  
TEL・FAX:022-381-1490  
E-MAIL:extension@shokei.ac.jp

### 学院創立 120周年 記念 尚志祭 2012 尚 Time ～届け笑顔の灯～

10月20日(土) 10月21日(日)  
出展公開 10:30～16:00 出展公開 10:00～14:30  
中夜祭 16:00～18:00 後夜祭 16:15～18:00

「学生による研究発表」「尚網120年の歴史がわかる展示」、お茶席や子ども向けの企画、またお客様も参加できる野外でのステージ企画はどれも充実した内容で、会場にいる皆さんが楽しんでいただける「尚Time」になっています。また、**飲食物や雑貨の販売**など様々な出店も予定しています。中夜祭・後夜祭は**アーティストをお迎えする予定!**さらに会場が一体となれる**ゲーム**など、**楽しめる企画が盛りだくさん!**2日目には**芸能人ライブ**を開催!楽しいライブを予定しています。また、ファイナーレを飾る恒例の花火はゆりが丘の夜空を彩ります!

皆さんの笑顔の灯を点すために、  
実行委員一丸となって  
準備に動んでいます。  
ぜひご家族皆様お誘い合わせの上  
お越しください。

心よりご来場を  
おまちしています!!



おくやみ  
謹んで  
哀悼の意を  
表します。  
駒井まさ子様(86歳)  
(昭和18年本科卒  
6月25日逝去されました)  
阿部 瑞子様(82歳)  
(昭和23年本科  
昭和25年専攻科家政科卒  
旧姓 高橋  
6月25日逝去されました)  
今川 秀夫様(61歳)  
(健康栄養学科教員  
星清子様(令兄)  
7月16日逝去されました)  
木須 義三様(85歳)  
(法人事務局事務員  
佐々木義則様(祖父)  
7月18日逝去されました)

### あなたもぜひ後援会員に!

後援会は、尚網学院の充実と発展に寄与するための支援団体です。  
学院を応援していただける方ならどなたでもご加入いただけます。  
後援会にご入会いただくと学院への援助と共に、尚網誌が(年6冊)届きます。

学校と保護者、母校と同窓生、生徒と保護者達、尚網を応援して下さる皆様と  
もっと「尚網」誌を通してつながって欲しい。そんな気持ちで出来ました!

# SHOKEI

5月 7月 9月 12月 2月  
年6冊5回発送  
※9月のみ通常・入募集特集号同時発行

後援会への入会に関しては、お気軽にお問い合わせください!

【年会費】 2,000円/年 (複数年可) TEL.022-381-3342 電話受付時間 木曜日を除く  
平日9:00～15:30  
FAX.022-381-3467  
【口座No】 02230-3-2116 HP http://ap.shokei.jp/dk/  
E-mail:koenkai@shokei.ac.jp  
尚網学院後援会事務局  
〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

専用の振込用紙もございますので、ご協力どうぞよろしくお願い致します。

### 編集委員 徒然日記

韓国の女子高校生を自宅に招き、5日間一緒に過ごした。彼女は日本語がほとんど話せなかったため、英語でやり取りせざるを得なかった。聡明な彼女は、すぐに私のジャパニーズ英語のくせをつかみ、発音を言い換えながら理解してしまっただ。素晴らしい!!そして…情けない。彼女が帰国後、久しぶりに、通勤の車中で、旅行英会話のCDを聞いた。こんな体験を含めて、楽しく、垣間見える異文化も面白く、あつという間に過ぎた国際交流だった。機会を与えてくれた尚網学院に感謝である。

(T.S.)

募集中! 記事を読んでの感想、思い出のお写真、情報等お待ちしております! お手紙 おハガキ FAX E-mail にてお送りください。

# プカンボジアプロジェクト

尚綱学院大学宗教部では、毎年国際子ども権利センターの提供する「カンボジア・スタディツアー」に、学生達を送り出しています。



## 「カンボジア・スタディツアー」について

大学宗教部長 東義也

カンボジア・スタディツアーとは、日本のNPO法人「国際子ども権利センター」(C-Rights)の提供するツアーです。このC-Rightsは、貧困、児童労働、人身売買など、カンボジアの子どもたちを取り巻く問題の解決に向けて、現地のNGOと一緒に活動している団体であり、尚綱学院大学は2008年にカンボジアプロジェクトを立ち上げてその支援に取り組んできました。2009年からは毎年学生たちをこのツアーに送り出しています。

カンボジアには、レイプや虐待によるトラウマや生活の困難を抱えた貧しい人たちがたくさんいます。ツアーを通して、学生たちはカンボジアの子どもたちを巡る様々な問題の背景や原因について理解を深め、子どもの権利を守り普及するために自分たちができることを考えてきました。

その一つは帰国後の報告会です。尚志祭ではパネル展示と口頭による発表会をしたり、報告レポートを作成したり、HP上でも報告してきました。彼らの学習・体験・考察の一連の作業は、「内面の充実と謙虚」「他者への愛と奉仕」という尚綱の建学の精神を实践し、世界の人々と共に生きようとする人間力の育成に大いに寄与するものだと考えております。実際に出発前とは見違えるほどに成長して帰って来る学生たちの姿に、このプロジェクトの意義を私たちは見出しています。このプロジェクトについては、大学の中期目標・中期計画にも盛り込まれており、今後もその継続と深化を目指して行きます。

● Cambodia

## 国際子ども権利センター(C-rights)とは

C-RightsのHPは、<http://www.c-rights.org/>

地球に生きる子どもたちの権利を実現するために「子どもの権利条約」「南の子ども支援」「開発教育」の3つの柱を中心に、市民参加による活動を行うNGO(民間の国際協力団体)。アジアをはじめとした国内外のNGOや国連機関等と連携して困難な状況におかれている子どもたちの基本的ニーズと権利の擁護をめざし、共生社会の創造、相互協力の関係を育てていくことを目的としています。

### プロジェクト1 南の子ども支援

カンボジアの子どもたちが人身売買や子ども買春、児童労働などの危険から守られる為に、子どもたち自身が子どもの権利を学び、権利侵害にあわないように力をつける(=エンパワメント)支援をしています。

### プロジェクト2 子どもの権利普及

日本国内でも「子どもの権利」を知ってもらうよう、子どもの権利条約やライツ・ベース・アプローチ(子どもの権利を基盤としたアプローチ)に関するセミナーや学習会を開催しています。

### プロジェクト3 シーライツトレード

人身売買や子ども買春の被害にあった子どもたちや被害に遭うリスクの高い少女たちが作った手工芸品を日本で販売し、子どもたちの自立支援をしています。

### カンボジア・スタディツアー

カンボジアの子どもたちの現状を知るために、現地でも活動するパートナーNGOの視察や子どもたちとの交流を通して、問題の背景や原因について理解を深めます。子どもを守り、共に生きるために、私たちにできることを考えさせられるツアーです。

## カンボジア・スタディツアー報告

現代社会学科教員 内田龍史

2011年9月4日から10日まで実施された、NPO法人国際子ども権利センター(シーライツ)主催の「カンボジア・スタディツアー」に、本学学生9名とともに参加しました。

カンボジアは日本とは比べものにならないくらい貧しい国です。参加した学生は、深刻な貧困によって、児童労働や子ども買春に巻き込まれた子どもたちの現状、性被害の実態などを知り、この問題の背景や原因についての理解を深めました。

人身売買と闘うAFESIPのフェアファッションの工場では、人身売買や性被害にあった女性たちが訓練を受け、衣類や小物などを製造していました。ここには現在、保育所が併設されています。子どもを育てながら働いているお母さんのために、尚綱学院の募金をもとに、シーライツが保育所の運営を支援していることもあって、工場のリーダーの方から、尚綱学院に対する御礼が述べられました。遠い国ではあるものの、世界はつながっている。そのなかで、私たちに何ができるかを考えさせられる瞬間でした。

ほかにも、シーライツが支援している国境地域の農村を訪れて子どもたちと交流したり、子どもの権利擁護に取り組んでいる国際NGO(Friends-international)などを訪問し、支援の現状を学びました。さらに、クメール・ルージュ時代の負の歴史を示すトゥール・スレン虐殺博物館や、ツアーの終盤には世界遺産であるアンコール・トムとアンコール・ワットを訪れるなど、密度の濃い旅となりました。

ツアーには他大学の学生も参加していましたが、学生たちは学科や大学の枠を超えてすぐに仲良くなり、交流を深めることができました。ツアーを通じて学んだこと、新たな出会いが、学生たちの視野を広げ、それぞれの現場で、よりよい社会を作る担い手となるための、成長の糧になると確信しています。

今後もスタディツアーの取り組みが発展するよう応援していきます。



カンボジア・スタディツアーに参加した  
あついで一気温も日差しも人と人のつながりも  
—そう思う国だと私は思いました。貧困、人身売買、  
HIV感染、過去の歴史…、おそらく問題を挙げて  
いけばキリがないでしょう。それでも今日一日をひ  
たむきに生きている人達がいることに変わりはない  
りません。  
ここで出逢った人達は皆、私たちに笑いかけてく  
れました。青い空と色鮮やかな風景と人の笑顔そ  
れらを与えてくれた今回のスタディツアーに感謝  
しています。  
一緒に行った15人はこれから  
どんなふう生きてゆくの  
自分にはどんなことができる  
のか、見つめていきたいと思  
います。  
(昨年参加の大橋さん)

## 今年のツアーに参加する学生の皆さん



今年の様子は12月号でご報告します。お楽しみに!

子羊からの一通の手紙 023



中高教員 田嶋 誠



「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。」  
と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

(IIコリント12章9節)

これは私が最も好きな聖句です。人生の迷子になったときや暴走しそうなときに原点に戻してくれるものであり、また生きる希望を与えてくれる聖句だからです。

しかし、この聖句をこのように捉えられるようになったのはそう昔からの話ではありません。これまでの人生で幾度となく襲ってきた挫折や、思いがつてしまったときにガツンと殴られるような体験を通してたどり着いたものと言えます。

この箇所はパウロがコリントの教会員に対して述べた言葉ですが、7節に「わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思いがらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです」とあります。エリートだったパウロは、神様から高くなった鼻を折るべく、

その思いがりを打ち砕くためにとげを与えられたと言っているわけです。人は何事につけ自分の力で物事を解決しようとしたり、または解決したと思いきや、こころでしつこくありますが、神様は「二つのとげ」を通して傲慢な生き方から神様にお任せする生き方に転換することを求められています。

一方、自分の弱さに自分が自分で嫌になることも多くありますが、神様から与えられた「弱さ」からは、ありのままの自分でいいんだよー神様に従うだけでいいんだよーと言ってくれていると受け取ることもできます。

最後に「パウロは」だから、キリストの力が私たちの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」と言われます。神様への感謝の気持ちを持ちつつ生活をしていきたいものです。

梅の花

教員(エッセイ)

vol.23

中高教員 白津 祈恵子  
グローバル・クラスメイツ

国際交流部は、様々な人たちに、支えられ活動している

Hさん@尚綱

「この映像は尚綱の部活の様子です。弓道部が映っています!弓道は日本の伝統的な武道だよ。」

…動画が流れる…

kさん@ラングレー

「すごいですね!!このスポーツはむずかしいそうです。体育のクラスでこれをしてみたいのに、私はへたです。あなたは上手ですね!!」

私が顧問を務める国際交流部では、昨年からアメリカのラングレー高校の生徒とWEB上で交流をしています。ラングレーの生徒たちは、日本語を学習していて、お互いに英語と日本語の両方での交流をしています。国際交流部の生徒たちも徐々に乗り気になって、最近ではレディ・ガガのまね動画をアップして、ラングレーの生徒の笑いを誘っていました。このプロジェクトは、日本の若者と他国の同世代をつなぎ、多様な文化や

価値観を楽しく理解することを目的とした Kizuna Across Cultures という団体のサポートを受けています。あるメンバーの言葉です。「俺は、子どもたちが将来、自分たちの想いを相手に、紳士的に、率直に、そして自信を持って伝えることができる為の小さなきっかけを与えたいと思ってるんだ。」

会ったこともない生徒たちのために目を輝かせ、汗を流す人がいます。自分も見ず知らずの人たちに支えられ、好きなことやりたいことを見つけて生きてきました。これから部活動の時間が授業でインプットした知識をアウトプットできる場となり、生徒たちが新しい人生観や世界観を創り出せる時間になるように仕掛けていこうと思います。



卒業生コラム

はばたき 第23回

1994年 尚綱学院高等学校卒業

小林 ゆかりさん

Velniccaヴェルニカ(東京都)経営者、デザイナー



仕事の打ち合わせ(左がご本人)



1994年 尚綱学院高等学校卒業  
1995年 山野愛子美容専門学校卒業  
モデル事務所 所属  
2002年 広告代理店/新規立ち上げ  
ファッション部 入社  
2004年 同 退社  
2005年 Velnicca 設立 現在に至る

楽しい時、苦しい時を共有したことや  
共通の価値観・美意識が  
ブランドの発展へと繋がっています。

尚綱卒業後どんな思いや経過を  
たどり仕事につきましたか?

尚綱を卒業後、ヘアメイクの仕事を目指して上京し、美容学校へ入学しました。

同じ職業を目指す仲間と美容の勉強に励む中で、この仕事は本当に自分に合っているのか?と、将来に疑問を感じ始めていた卒業目前、モデル事務所への所属が決まり、卒業後、本格的にモデルの仕事にスタートしました。

モデルとして活動した7年間の中で、CMを中心に企業の広告や雑誌、ブランドのカタログなどの仕事を経験させて頂き、沢山の洋服を着る機会に恵まれたことで、もともと好きだったファッションの仕事に強く興味を惹かれるようになっていきました。

セレクトショップでの販売を経験した後、モデルの仕事に辞め、NYのファッションブランドの日本代理の立ち上げに携わることになり、その会社では、ブランド戦略に始まり、商品企画、営業、ファッション業界の1連の仕事に触れることができ、経験したことすべてが、現在の私にも繋

がる大きな財産となっていると感じています。

その後、尚綱時代のクラスメイトで卒業後も交流を深めていた小林加奈と共に、友人3人で、女性が女性であることを堪能できるブランドを構想の軸に、Velniccaを立ち上げました。

同窓生と起業し、プラスに  
感じる部分は?

尚綱時代から今に至るまで、たくさんの楽しいを一緒に追い求めて共有してきた事、苦しい時も共感してお互い成長してきた事、そういう時間を積み重ねてきた中で、美しいと感じる価値観や、心地良さを大切にしているスタイルが共通している点やお互いに多くを語らずに理解しあえる関係であることがVelniccaというブランドを展開していく中で、とても大きな力となっていると感じています。



モデル時代



上海にて

夢を追う尚綱生に  
アドバイスを

自分のアンテナに引っかかることに、敏感に、たくさん触れて欲しいです。私自身、成功から得たことも、失敗から学んだことも、たくさんありました。

その中で、あらゆる経験が私の大きな財産となって、その経験の積み重ねが今の私に繋がっているんだなあ...と、ブランドを立ち上げて数年経った今、その経験に繋いで下さった方々への感謝と共に、常々感じています。

Time Schedule

ある日の小林ゆかりさんを追う!

- 8:00 起床
- 8:20 バスタイム
- 8:50 朝食&出社準備
- 10:00 出社 メールチェック
- 11:00 雑誌の付録企画 打ち合わせ
- 13:00 社内スタッフとのランチミーティング
- 14:30 コラボ商品企画 サンプルチェック
- 15:30 デザイン作業
- 19:00 メールチェック後 帰宅

創立120周年を迎えた今年、伝統を受け継ぎつつ、新しい時代へと向かう学院生の活躍を写真と共に紹介します。

## 法人事務局

学校法人尚綱学院120周年記念事業  
**創作劇「GOODNESS  
ープゼル先生伝」  
公演無事終了**

尚綱学院創立120周年記念事業の創作劇「GOODNESSープゼル先生伝」公演が、8月23日(木)・24日(金)に国際センター大ホールで行われました。NPO法人劇団仙台小劇場の全面的協力により、公開オーディションで集まった尚綱学院関係者総勢約70名による音楽劇です。おかげさまで同窓生はじめ一般客まで含めておよそ1,900名の皆さまに鑑賞していただくことができました。創作ではありませんが、明治の時代、宮城の置かれていた事情、尚綱の成り立ちが、リアルに再現され、ご覧の方々に大変喜んでもらえました。関係者一同深く感謝いたします。



(参与 菊池雅人)

## 中学校

### 市中総体結果報告

みんなが頑張った結果です！  
6月9日(土)～11日(月)に行われた仙台中総体の結果は左記のとおりとなりました。運動部のみなさん、お疲れさまでした。  
県大会にはバドミントン女子個人で松田ほのかさん(青葉区2年連続優勝)、陸上四種競技で竹内匠平君が出場しました。ベストを尽くして試合をやり遂げることが出来ました。

## 陸上部

四種競技 3年 竹内匠平君



5位入賞!  
県大会  
8位入賞

## バスケットボール部女子



## 幼稚園

### 心を含めて歌ってきました! ありのまま舎訪問

年長組の子どもたちは、6月14日(木)太白区茂庭台にある重度障害者・難病ホスピス「太白ありのまま舎」に行ってきました。  
子どもたちは、花の日札拝で持ち寄った花を届けたいと自分たちで準備し、また施設の方々に元気を届けられたらと、コンサートの企画も考えました。



(幼稚園教員 清野正恵)

### 個人戦青葉区優勝! 県大会 5位入賞

## バドミントン部女子

個人シングルス 3年 松田ほのかさん



6月9日(土)～11日(月)に中絶体青葉区大会が行われました。今回の私の目標は、個人戦二連覇、団体戦一回戦突破でした。  
結果は、団体戦は一回戦で負けました。一年生も二年生も自分も頑張ったので悔いは残りませんでしたが、個人戦は優勝して、二連覇を達成することが出来ました。結果は満足したけれども、内容は満足できるものではなく、とても悔いがありました。けれど、このような結果が残せたのは、日頃私に指導してくださるたくさんの方がいてくれたからです。ありがとうございます。

(3年A組 松田ほのか)

### 甘いすいかをたくさん食べました! すいか割り

7月13日(金)、夏休み前のお楽しみとしてすいか割りを行いました。一人ひとり目標しをしてすいかに向かってくくと、「こつこつこつちーがんばれ」と応援を始める子どもたち。見事、棒がすいかに命中すると園内に歓声が響き渡り、大変盛り上がりました。  
みんなで力を合わせて割ったすいかを、子どもたちは「おいしいね」「甘いね」と嬉しそうに食べていました。甘いすいかに夏の訪れも感じながら、楽しいひと時を過ごしました。



(幼稚園教員 武田香織)

### 戦争のない平和な世界に 平和学習

7月13日(金)地元在住の手島貞一さんをお迎えして平和について学びました。

私は平和学習で、空襲の時の様子を知る事が出来ました。  
手島さんに見せて頂いた防空壕は、仙台空襲の時に役立ったものです。今でも残っています。いなかと思いません。  
仙台空襲の日。空襲警報が鳴り、防空壕に36人が駆け込みました。この36人の命が救われて良かったです。私は、今回空襲の話聞き、怖いし、今は戦争がなくて良いと思いましたが、でも、戦争を知らぬまま生きてはいけないと思います。これからも戦争のない、平和な日々を送れるよう祈ります。

(1年A組 飯田比菜)



### 助け合いながら過ごしました! 年長組・お泊まり会



7月17日(火)・18日(水)は年長組のお泊まり会でした。大好きなお父さん、お母さんから離れ、蔵王自然の家に泊まってきました。  
お泊まり会では蔵王の山を探検し、広い原っぱで虫取りをしたり、木工クラフトをして遊んでました。夕食はカレー、夕食後はキャンブファイヤーや温泉、みんなで寝ることも楽しく、子どもたちの笑顔があふれていました。大自然の中の生活を満喫し、友だちと助け合いながら生活してきました。お泊まり会を通して、一段と大きく成長した年長組の子どもたちです。

(幼稚園教員 菊田めぐみ)

### チャレンジする事の大切さ イングリッシュキャンプ



私がイングリッシュキャンプを通じ、考えた事は、人との関わりの大切さです。最初は、できないと決めつけていた英語も、時間がたつにつれ、気づく事がありました。それは、苦手意識を持たず、チャレンジすることです。講師の方の言葉を理解するまでも時間がかりました。しかし、会話の中には言葉だけでなく表情でのものもあると思います。笑顔で話せば、相手も返してくれます。

だから「コミュニケーション」は、言葉が通じなくてもできる事だと思います。これからコミュニケーションを大切にしていきたいです。

(2年A組 高橋茉那)



### 元気な声が響いています! 夏期預かり保育 コスモス組



夏の預かり保育は、7月20日(金)から始まりました。クラスの様子を外し、3歳～5歳の子ども達が過ごします。利用人数は一日10人前後ですが、多い時は20人も子ども達が集まります。  
室内ではCDをかけステージで踊る姿や、積み木を使いお部屋を作りこつこ遊びをする姿。今年から遊戯室にエアコンが設置され、子ども達は気持ちよく遊んでいます。テラスにはプールを出し水着で水遊び。笑い声が響きます。  
神様に見守られ、暑い夏も子ども達と共に元気に楽しく過ごせますように。

(幼稚園教員 小松美由喜)



## 高等学校

### 平和について考える 平和祈願礼拝



7月20日(金)に平和祈願礼拝が行われました。今回は、尚綱学院大学の今井誠二先生にお話をいただきました。平和というのは、戦争をしないだけでなく、いじめや人に優劣をつけるような考えを改めなければ実現しないということに思わされました。隣を思いやり、共に生きるために、私たちに与えられているものを用いることができるようになると思います。  
尚綱に入学し、平和七夕に参加するのも6年目になりました。毎年鶴を折るたびに平和について考えさせられ、とてもいい経験をさせていただいたと思います。

(高3宗教委員会副委員長 半澤なつみ)

特別進学コース

モンタナ短期留学

7月7日(土)から22日(日)までの16日間、高一貫コースの4年生(高校1年生)がアメリカ合衆国モンタナ州に海外研修に行ってきた。英語コミュニケーションの意欲と能力を高め、これまでの探求活動を発展させPBLの深化を図ることが目的です。出発前に、各人が各々のプロジェクトを立て、事前調査により仮説を立てました。問題が難しい場合、アメリカでの探求を踏まえて問題解決のための仮説を発表する準備をして出発しました。

基本的に午前中は授業、午後は各種見学と体験学習・交流をし、夜遅くまで課題に取り組みました。また、生の英語の発音に苦労しながらも、各々のテーマに関するインタビューを行いました。

(中高一貫主任 佐々木達也)



モンタナ研修で私はとてもたくさんのお話を学ぶことができました。一つは英会話の楽しさと必要性です。私は研修に行く前はとも不安でした。実際、発音も単語も分からなくて電子辞書が手放せませんでした。でも、身振り手振りなどでもコミュニケーションが取れること、笑顔だったりすれば気持ちを理解してもらえることが分かりました。二つ目は、何事にも前向きに自分から挑戦するということ、そして他者への優しさです。扉を開けて、通る人が来るまで待っている。アメリカでの当たり前の他者への優しさや、明るくポジティブなところを見習えたらいいと思います。もっとアメリカにいたいと思えるほど楽しく、とても貴重な経験になったと思います。

(1年9組 逸見愛里)

高連携 尚綱学院大学 出前講座



総合進学コース文系高校2年生を対象に、尚綱学院大学の6名の先生方による連携授業を、6月22日(金)、29日(金)の2日間にわたり開講しました。

この連携授業の目的は、進路選択のためだけでなく、PBL(探究学習)で用いる探究手法の充実にあります。表現文化学科・秋月高太郎教授による「看板の言語学」を受講した2年4組鈴木榛奈さんは、「看板一つで、文字や色・形によって行ってみたくなるというのは、すごい力を持っているなと感じた。私にもできる手法なので、色々な国の表現の仕方を分析したいと思った。」と新たな意欲を語ってくれました。

(教務主任 森田寿)

韓国と日本の姉妹校交流 イサベル高校との交流

7月18日(水)23日(月)、姉妹校のイサベル高校から生徒16名と先生2名が来校し、姉妹校交流を行いました。

「今度は日本で会おう」と言って、二年生は震災で中止になりましたが、私の家にソユンが来ることになりました。「ソユン」彼女の名前を呼び抱き締め合った瞬間、私の目から涙が溢れました。同時に韓国で学んだこと、感じたことを日本で私が返そうと誓いました。日本の文化や歴史、食べ物などたくさんを経験してもらいました。文化の違いで傷つくこともありましたが、お互いの文化を認め合い、本当の友情を育んでいけたらと思います。これからも交流を続けていきたいです。

(3年6組 伊藤裕絵)



生徒たちも運営に携わりました オープンスクール

8月11日(土) 高校オープンスクールが行われました。当日は400名を超える中学生の参加がありました。たくさんの中学生たちに本校の「高校生活」を体験してもらうことが出来ました。今年度は全体司会や学校紹介、受付・校内案内・授業体験などで、多くの高校生たちが「尚綱協力隊」としてオープンスクールの運営に携わり、これまで以上に活気あるオープンスクールになりました。来校した中学生や保護者の方も、高校生たちの生き生きとした姿を目の当たりにし、本校の雰囲気を感じることもできたのではないのでしょうか。

(入試広報室 小島里美)



高校総体報告

勝敗以外にも学ぶことがありました。高校総体までの日々を思い返すと、たくさん学んだことがありました。昨年、私たちバドミントン部は、新人戦の団体戦でベスト4に入ることが出来ず、全員が悔しい思いをしました。今年の総体では、その悔しさを晴らすために、一人ひとりが練習や合宿を通して心も体も強くしてきました。辛いこともありましたが、一緒に乗り越えてくれる仲間がいてくれたので全員が一回りも二回りも成長することが出来たのだと思います。

今回は良い結果には恵まれませんでした。部活動を通して得た頑張ることの大切さや努力することの大変さは私たちが人間として大きくしてくれました。顧問の先生、コーチの方々に始め、多くの方々に感謝しています。ありがとうございました。

(バドミントン部部长 吉田知世)



バドミントン部 女子 ベスト8入賞



陸上部 男子高跳び 庄司 悠佑 君 東北大会 5位



ソフトテニス部



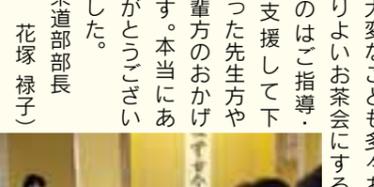
テニス部



バスケットボール部



水泳部



弓道部



剣道部

練習の成果を発揮できました 合唱団定期演奏会

4月に赴任してからの3ヶ月間、不安を感じない日はありませんでした。準備期間が短い上に、生徒達が全員揃って練習できる日が少なかったからです。しかしながら、生徒達は自主的に昼休みの時間も削って、非常に精力的に練習に取り組みました。その努力の甲斐あって、当日は悪天候にも関わらず、ほぼ満員のお客様においでいただく事が出来、大盛況の内に幕を閉じる事が出来ました。当日おいていただきました皆様はもとより、平日頃からご理解とご支援を頂いております同窓生の皆様、また全ての関係者の方々にに対し、厚くお礼申し上げます。

(合唱部顧問 西川慶)



沢山の人が足を運んでくれました 茶道部定期茶会

7月16日(月)に瑞鳳寺で第61回目の定期茶会を開催できました。去年は大震災の影響で中止になってしまいましたが、とても残念に思っていました。今回、足を運んで下さったお客様にも「楽しみにしていたのにとても残念でした。」等のお言葉を沢山いただき、こんなにもお茶会を楽しみにして下さっている人がいることは私達にとって大きな励みになりました。部員数が少なく大変なことも多々ありましたが、よりよいお茶会にすることができたのはご指導・ご支援して下さった先生方や先輩方のおかげです。本当にありがとうございました。

(茶道部部长 花塚 緑子)



### 無事に開催することが出来ました！ 体育大会

7月5日(木)・6日(金)3年ぶりの体育大会の開催。空模様が悪い中グラウンド整備を行い、どうにか午後から競技開始をする事になりました。生徒達は待つていた様にグラウンドに走り出し準備を手伝い競技開始を待っていました。

(体育科主任 大沼良彰)

### 体育大会を終えて

雨で延期になるかと思われた7月6日(金)の体育大会。私たち最後の学年には、とても大事な行事の一つでした。各種目ごと、一人ひとりが全力で臨み、いい汗をかきました。その中でもリレーは、クラスごとと団結し、協力し合ってバトンをつなぐ姿が見えて、結束力の偉大さを感じ、一人ひとりの心に深く刻まれた、120周年にふさわしい素晴らしい大会になりました。

(3年3組 内澤 絵理奈)



### 大学

### 2012年度 尚学会総会報告

6月9日(土)午後1時15分から、本学5F講義室を会場に尚学会総会が開催されました。保護者99名、教職員64名の合計163名の出席がありました。阿部事務長の司会のもと、坂口会長を議長に選出し、

- (1)2011年度会務報告
- (2)2011年度収支決算報告  
並びに会計監査報告
- (3)2012年度活動計画
- (4)2012年度予算案の提案
- (5)役員改選

の順で議事が進められました。決算報告と予算案については、援助金等



(尚学会副会長 鈴木道子)

### 子ども学科 懇談会報告

6月9日(土)に行われました尚学会総会終了後、引き続き各学科に分かれて学科懇談会がおこなわれました。

子ども学科では、保護者12名、教員13名の参加があり、活発な意見交換が行われました。まず保護者の方から、家では「友だちができて、毎日楽しい」「授業や部活動も楽しく、充

実している」と話していると、いった声が多く寄せられ、学生、保護者共々、学生生活に満足している様子がうかがえました。また、「3資格すべて取得は難しいが、どう指導してくれるか?」「専門職への就職率は?」また具体的な支援体制は?といった不安に思っている点の質問も出ました。が、教員側からの説明に納得した様子でうなずいておられました。

(子ども学科長 小松 秀茂)



(表現文化学科 3年 早坂 浩)

### 「卒業生との懇談会」開催

「卒業生との懇談会」に参加して

7月7日(土)、卒業生との懇談会が行われました。24名の卒業生の皆さんと、私たちが在学生約270名が一同に会し、卒業後の進路について先輩方の経験談を伺いました。先輩方が勤めていらっしゃる会社の業務内容や、就職活動に関することなど多岐にわたった事柄を、在校生に対し丁寧に教えて頂きました。今回の機会がなければ、社会人として働いている沢山の先輩方から直接お話しを伺うことが出来ませんでした。

先輩方からアドバイスを受けることで、就職活動への取り組み方や具体的な何をしなければいけないのかが明確になり、積極的に行動する気持ちが高まりました。お忙しいなか来て頂いた先輩方、企画して頂いた進路就職課の方に感謝し、これから就職活動に励んでいきます。

(表現文化学科 3年 早坂 浩)

### 2012年度第一回 FD・SD集會報告

6月19日(火)午後2時40分から、本学5F講義室を会場に、「学内ハラスメント防止に向けて」というテーマで第1回FD・SD集會が開催され、多くの教職員が共に学ぶ機会を持ちました。まず、法人事務課の佐々木寿徳課長から「尚綱学院ハラスメント関連規程について」の説明があり、ついで本学子ども学科安田勉教授の講演「本学のハラスメント相談のあり方についての提言」他大学の事例をもとに「」がありました。大学の全ての構成員そして来訪者にとって、安全・安心の場を維持していきたいという思いを新たにしました。

(FD・SD委員会委員長 鈴木道子)



### 2012年度 オープンキャンパス in summer

今年度第2回となる、最も盛大なオープンキャンパスが8月4日(土)に開催されました。天候にも恵まれ、受付開始早々から多くの高校生、保護者の方々が賑わいました。

今回は初の試みとして、「学科まごころ紹介コーナー」を設け、それぞれの学科の入試情報と学科での学びや就職まで全て知ることが出来る内容を企画し学生と共に実施しました。多くの高校生が関心を持って展示パネルなどに見入る姿や学生と懇談する場面があり、また好評だった就職した卒業生との座談会では、高校生が自分の将来をイ



イメージしながら真剣に聞き入る様子が窺われました。放射能に関する最新情報を解説した「保護者対象セミナー」や「入試対策講座」に対する関心も高く、AO入試を皮切りにこれから実施される各種入試に多くの受験生が集まることが期待できる盛況なオープンキャンパスでありました。

(入募入試部長 桂 重樹)

### 同窓会 コーナー

### 第3回アフタヌーンコンサート

私達の自主グループは東日本大震災以降は以前にも増して「あすと長町」から「山元町」までの仮設集会所を頻りに訪問し被災者の方々との交流を図っています。この度アフタヌーンコンサートに被災者の方々と一緒に招待を受け喜んで参りました。初めて見る尚綱学院の環境の良さにうらやましく思いました。眼下に見える蛇行して流れる広瀬川。遠くに見える緑の森。日常生活ではほとんど見ることもない礼拝堂。ステンドグラスやイエス様の絵、パイオルガン。歴史を感じさせる礼拝堂に入るだけで自然と心が癒される思いがしたのは被災された方々も同じだったと思います。これだけでも訪れた甲斐がありました。国際大会で優勝された土田先生の奏でるピアノは胸を打ちました。少年少女合唱団の歌は心に響きコンサートを聴いて何かしら不思議な力をいただきました。尚綱学院同窓会を始めこのような機会を設けて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



(有住 竜代治)

### 八三会・墓前礼拝

連日の猛暑から一変して当日は木々の緑が爽やかに感じられる中で墓前礼拝が80名の方のご参加を頂き開催されました。今年尚綱学院創立120周年、同窓会創立110周年という節目の年と「GOODNESS」フェスティバルの公演も8月23日、24日に予定されており、公演に先駆けての意味深い墓前礼拝になるのではと思われました。

小林孝男先生より講話を頂き、フェスティバルは日本人より日本人らしくこの仙台の地で、遠野の地で生涯を送られたことを知り、とても身近な方に感じられました。また尚綱の建学の教の原点はここにあるのだというところを改めて知らされたような気がしました。

(役員 瀬谷 眞代)



### インフォメーション

### クリスマス讃美礼拝・祝会のご案内

- 日時 12月8日(土)12時30分
  - 場所 広瀬校舎
  - 会費 500円
- ☆皆様のご参加をお待ちしております。  
(連絡先 022-264-5830)